

令和6年度大学コンソーシアムとちぎ 学生活動支援事業 報告書

機 関 名	宇都宮大学
団 体 等 名	ほんわか里山物語～おおぎす自然体験村～
学生代表者氏名 (所属・学年)	佐藤穂波(宇都宮大学地域デザイン科学部コミュニティデザイン学科2年)
責任教職員氏名	西尾孝佳

1. 事業名	宇都宮大学生による元気な里山を目指す大木須地域振興事業
2. 実施時期	令和6年6月から令和7年2月
3. 実施場所	宇都宮大学、栃木県那須烏山市大木須地区
4. 事業の内容等	<p>1.地域の景観と魅力を向上し自然体験の場となるビオトープ作り 大木須地域にある古民家(ほたるの里古民家おおぎす)付近の本サークルが整備を手伝っているビオトープにおいてかつての水生の動植物の生態系の復帰を大きな目標に、いくつかの事業を行ってきた。ビオトープの植生の変化は数年前からのアメリカザリガニの大量繁殖によるところが大きい。この改善のため、トラップによる捕獲と、農薬散布の対策を講じる。また、水質改善のため、水路の整備による水源および一定の水の流量の確保を行う。さらに、ウッドチップの散布をはじめ木道の整備を行い、これは、景観の向上と安全性、利便性の向上を目指したものである。</p> <p>2.古民家を利用したグリーンツーリズムのプログラムづくり 那須烏山市大木須地域に位置する宿泊施設であるほたるの里古民家おおぎすを利用したグリーンツーリズムをサークルとして体系化するための諸活動を行ってきた。</p> <p>2-1コンテンツ作成 大木須地域固有の資源である豊かな四季折々の植物・生物や地域の方々の暮らし・文化などを活用し、関係人口の増加を狙った日帰りまたは一泊二日の大木須地域での旅行プランに組み込む参加体験型のコンテンツを発掘する。</p> <p>① 自然分野 里山における豊かな自然環境を活かしたコンテンツ作成を行う。大木須地域に足を運び、ビオトープの調査・整備や花の開花状況の調査などの活動から地域自然の発掘を行ってきた。これに加え、サークルでの古民家への宿泊の機会や、地域内を探索することから自分たちの理解を深めるとともに地域の方にお話を聞いて相談し、協働のもと、新しい内容を模索する。</p> <p>② 社会分野 里山の暮らしに注目した体験型のコンテンツを作成する。大木須地域にお</p>

	<p>ける地域資源である樹木の葉を活かした工作や特産品である蕎麦を活用した体験活動を行う。大木須地域の魅力が伝わるコンテンツの作成から地域外の方を招き、実際のプログラムの試作へつなげる。</p> <p>2-2グリーンツーリズムのプログラム作成、実行 2-1を活用した一泊二日のグリーンツーリズムプログラムを実施する。地域の方々との協働により、おの魅力発信の一助となる企画を実行する。</p> <p>3.古民家のコンセプト具体化のお手伝い 大木須地域がコンセプトとして掲げている「自然体験村」のキーワードをもとに、これを具体化および可視化できる活動を行う。</p> <p>3-1看板製作 大木須地域に休憩所として立ち寄るサイクリング・ツーリング客に向けて、大木須地域がどのような場所であり、どのような魅力を持つのかを伝えることのできる手段を確立する。いつでも情報を提供できる手段として看板を制作する。以前は古民家に立ち寄る機会のない方に対してこの手段として挙げられるものがなかったため、いつ大木須を来訪した方にも大木須について知ってもらい興味を持ってもらうことで古民家の宿泊客を増やすこと、さらなる関係人口を増やすことを狙ったものである。</p> <p>3-2パンフレット作成 大木須の大まかな情報を3-1の看板製作において発信するとともに、詳細な情報を組み込んだパンフレットを作成する。豊かな自然や地域の暮らしを組み込んだものとし、看板と異なり運搬も可能であることからさらなる広範囲な情報発信も可能なものとする。</p>
5. 事業の成果と今後の課題	<p>1.地域の景観と魅力を向上し自然体験の場となるビオトープ作り ビオトープにおいてかつての水生の動植物の生態系の復帰を大きな目標に、いくつかの事業を行ってきた。数年前から大量繁殖したアメリカザリガニへの対策として、トラップによる捕獲と、農薬散布により個体数の削減、特に成熟した個体数の削減に成功した。今後の課題として、より効果的で、成熟した個体以外への影響も大きい手法の確立が挙げられる。水質改善について、水路の清掃と、イノシシにより破壊されていた部分の修繕から、水源および一定の水の流量の確保ができた。水質改善の効果がどれほど認められるかについてのデータ収集と評価、イノシシ対策が今後の課題である。また、ビオトープからの泥の流出は水質改善のために狙った効果の一つであるが、これによる下流部で泥の堆積、水の逆流、溢水が課題である。木道の整備について、従来の破損していた木道の撤去と新しいものの設置を行い、新たにウッドチップも散布することにより、景観の向上と安全性、利便性の向上が認められるようになった。今後の課題としては、継続的な修繕と保持が挙げられる。</p> <p>2.古民家を利用したグリーンツーリズムのプログラムづくり ほたるの里古民家おおぎすを舞台としたグリーンツーリズムをサークルとして体系化するための諸活動を実行段階に移し、リフレクションを行うことがで</p>

きた。今後の課題としては、サークル内での検討や地域の方との協働からツアーリズムのプランの中身について深めることはできたものの、外部からいらしたお客様との反応と規格の波及効果について評価するには実行段階の規模や回数が足りていないことが挙げられる。

2-1コンテンツ作成

大木須地域固有の資源である豊かな四季折々の植物・生物や地域の方々の暮らし・文化などを活用し、関係人口の増加を狙った日帰りまたは一泊二日の大木須地域での旅行プランに組み込むことを前提に参加体験型のコンテンツを発掘できた。

③ 自然分野

里山における豊かな自然環境を活かしたコンテンツ作成を行う。大木須地域に足を運び、学生による案内での里山散策、ビオトープを利用した体験活動を検討し、1月に企画した宿泊のイベントで実行に移した。しかし、マニュアルの作成に至らず、サークル員の中で知識量やお客様とのコミュニケーション力にばらつきがあるために個人の能力に任された活動である要素が強く、サークルの提供できるコンテンツとしての体系化という点で課題が残る。また、イベントでの実行には至らなかったがコンテンツの開発の意図で地域資源である樹木の葉を取り入れた風鈴の制作活動を行った。今後の課題として、活動のより実践的な場での具体化が考えられる。

④ 社会分野

里山の暮らしに注目し、大木須地域における地域資源である樹木の葉を活かした工作や特産品である蕎麦を活用した体験活動、地域で文化のあった炭酸まんじゅうづくりの体験活動を行う。地域の方と検討を重ね、大木須地域の魅力が伝わるコンテンツの作成を行う。課題としては、実際にお呼びしたお客様を相手に行ったことがないために外部視点の評価が得られていないことが挙げられる。

2-2グリーンツアーリズムのプログラム作成、実行

2-1を活用し、グリーンツアーリズムの体系化を目指した第一段階として、一泊二日の小規模な宿泊イベントを実施した。地域の方々との協働により、サークル主体で開発した自然分野の体験活動のほか、里山の暮らしの体験として餅つき体験を組み込み、SNSを利用した広報で学生をお客様として招いた。Googleフォームを活用した事前および事後アンケートの実施により、効果的なプログラムの実施と評価ができた。集客および広報活動の準備が十分でなく小規模な開催となった。小規模な開催であるためにお客様個人への丁寧な対応ができた部分もあるが、関係人口の増加という点においてはあまり大きな効果は得られなかったことが課題である。

3.古民家のコンセプト作りのお手伝い

大木須地域がコンセプトとして掲げている「自然体験村」のキーワードをもとに、これを具体化および可視化できる活動として、看板の制作、本サークルと地域とを紹介するパンフレットの作成を実行した。

3-1看板製作

大木須地域に立ち寄るサイクリング・ツーリング客に向けて、大木須地域の発信をする手段の一つとして看板の制作を完了した。いつ大木須を来訪した方にも大木須について知ってもらうことのできる環境づくりができた。古民家の宿泊客を増やすこと、さらなる関係人口を増やすことを狙ったものであるが、その効果の計測には至っていないため、今後の課題として挙げられる。

3-2パンフレット作成

大木須の大まかな情報を3-1の看板製作において発信するとともに、詳細な情報を組み込んだパンフレットを作成した。豊かな自然や地域の暮らしを組み込んだものとし、看板と異なり運搬も可能であることから古民家に寄贈したほか、宇都宮市内の028マーケットや宇都宮大学の大学祭で配布し、広範囲での広報活動につなげることができた。パンフレット掲載の資料の刷新や文字の大きさなどでお客様からフィードバックを得られたため、これを改善することが今後の課題である。



↑ 図1 3-2パンフレット作成

↓ 図2 1ビオトープ作り, 2-2グリーンツーリズムのプログラム作成、実行





↑ 図3 2-1コンテンツ制定②社会分野

↓ 図4 2-1コンテンツ制定②社会分野



- (注) 1. 機関名・団体等名・学生代表者名・責任教職員氏名・事業名は、申請時と同様の内容を記入してください。
2. 記述が枠内に収まらない場合は、枠を拡大してください。
3. 事業内容がわかるような資料や写真などがあれば添付してください。
 ※団体関係者以外の写真を添付する場合は、個人が特定できないよう顔部分を隠す等の加工をしてください。
4. 報告書（添付書類を含まず）はA4判3枚以上5枚以内にまとめてください。
5. この報告書は、各関係機関等へ公表するとともに、大学コンソーシアムとちぎのホームページへの掲載を予定しており、次年度以降の学生活動支援事業に役立てていきます。

支出明細書

No.	日付	項目	金額	備考
1	2024/8/11	JR烏山～宇都宮駅間	¥1,180	交通費
2	2024/8/21	宇都宮～烏山間レンタカー	¥9,265	交通費<¥7,100(8/7契約レンタカー代)+¥550(ノンオペレーションチャージ)+¥1615(ガソリン代)>
3	2024/9/3	JR宇都宮～烏山駅間	¥590	交通費<¥590×1名>
4	2024/9/3	JR烏山～宇都宮駅間	¥590	交通費<¥590×1名>
5	2024/9/5	宇都宮～烏山間レンタカー	¥11,434	交通費<¥10,100(9/4契約レンタカー代)+¥550(ノンオペレーションチャージ)+¥784(ガソリン代)>
6	2024/9/5	コンテンツ作成炭酸まんじゅうづくり用(カボチャ)	¥200	
7	2024/9/6	コンテンツ作成炭酸まんじゅうづくり用(フラワー薄力粉麦粉 玉三つぶあん700 ベーキングパウダー タンサン(重曹))	¥1,159	
8	2024/9/8	JR宇都宮～烏山駅間	¥590	交通費<¥590×1名>
9	2024/9/8	ビオトープ生物調査用(昆虫ケース 伸縮虫とりあみ)	¥550	
10	2024/9/9	コンテンツ作成炭酸まんじゅうづくり用(あんこの素)	¥702	
11	2024/9/9	コンテンツ作成炭酸まんじゅうづくり用(野菜チョッパー スプレー(500ml))	¥440	
12	2024/9/10	宇都宮～烏山間レンタカー	¥9,529	交通費<¥7,100(9/6契約レンタカー代)+¥550(ノンオペレーションチャージ)+¥1,879(ガソリン代)>
13	2024/10/5	ビオトープザリガニ駆除トラップ用(餌)	¥3,828	
14	2024/10/6	宇都宮～烏山間レンタカー	¥8,829	交通費<¥7,100(10/2契約レンタカー代)+¥550(ノンオペレーションチャージ)+¥1,179(ガソリン代)>
15	2024/10/14	広報費(印刷代)	¥200	
16	2024/10/30	広報費(印刷代)	¥3,865	
17	2024/11/8	コンテンツ作成炭酸まんじゅうづくり用(薄力粉、レジ袋、重曹、白砂糖)	¥817	
18	2024/11/10	烏山駅～大木須タクシー	¥3,300	交通費
19	2024/11/10	宇都宮～烏山間レンタカー	¥8,493	交通費<¥7,100(11/8契約レンタカー代)+¥550(ノンオペレーションチャージ)+¥843(ガソリン代)>
20	2024/11/12	コンテンツ作成炭酸まんじゅうづくり用(カボチャ)	¥564	
21	2024/11/30	グリーンツーリズムのプログラムづくりおよび古民家のコンセプト具体化検討用マーカー等文具	¥550	グリーンツーリズムのプログラムのづくりおよび古民家のコンセプト具体化の検討のためサークルでの話し合いに用いたマーカーなどをはじめとした文具に充てた
22	2024/12/1	宇都宮～烏山間レンタカー	¥4,283	交通費<¥3,542 レンタカー代)+¥741(ガソリン代)>

23	2024/12/7	ビオトープ生物調査用虫かご	¥110	
24	2024/12/12	コンテンツ作成炭酸まんじゅうづくり用(ホイール)	¥110	
25	2024/12/14	JR宇都宮～烏山駅間	¥1,180	交通費<¥590×2名>
26	2024/12/14	JR烏山～宇都宮駅間	¥420	交通費<¥420×1名>
27	2024/12/14	グリーンツーリズムのプログラム作成用宿泊イベント食費	¥4,354	
28	2024/12/15	JR烏山～宝積寺駅間	¥420	交通費<¥420×1名>
29	2024/12/15	JR烏山～宇都宮駅間	¥1,180	交通費<¥590×2名>
30	2024/12/15	宇都宮～烏山間レンタカー	¥14,959	交通費<¥12,320 レンタ カー代>+¥2,639(ガソリン 代)>
31	2025/1/25	ビオトープ木道整備用(工具)	¥3,008	
計			¥96,699	

* 別紙を使用して領収書(令和7年2月28日までのものに限る)を必ず添付してください。

* 原則として領収書1枚につき1行とし、日付順に記載してください。